

CTD-RMS オペレーションマニュアル Ver.1.0

(2009.6.11 塩川作成)

1) seasaveの画面を開く

2) 右クリックをしてset upを選ぶ

select ~ で125db , 50db , 100dbなどのファイルを選ぶ

modifyでグラフの目盛の間隔 , max,minの値などを設定する

設定後OKを押し , 保存はしない(いいえを選択)

これでモニター画面の基本設定が完了

3) ツールバーの中のReal Time dataのSTART ACQUISITIONを選択

Enter output Data File Nameをクリック

stA1などの名前をつける

この時ファイル名にはスペースやドット , ハイフンは使用してはいけない！！

OKをクリック

測点に到着したらStart Acquireをクリック

オペレーション(船員) **水深 m。**

オペレーション(自分) **水深 m研究室了解しました。**

CTD水面。

CTD水面研究室了解しました、しばらくお待ち下さい。

足元のモニターが10から11に変わったらOKをクリック

画面にCTDからの水深データが表示される

CTD水深 mまでおろして下さい。

m = 水深 - 3 or 5m

残り10m。

5 , 4 , 3 , 2 , 1ストップお願いします。

この時点でCTDが水深マイナス3or5mの位置にある

採水あり	採水なし
<p>1) CTD採水を行います,しばらくお待ち下さい。 viewをクリック</p> <p>File Bottole Controlをクリック</p> <p>Fire Bottoleをクリック、OKで採水ボトルを閉める</p> <p>2) CTD水深 mまで上げてください。</p> <p>了解。</p> <p>同じことを繰り返し最後にCTDを回収する</p> <p>3) CTD回収して下さい。</p> <p>i) Real Time DataをクリックしてStop Acquisitionを選択</p> <p>ii) File をクリックしてPrint を選択して画面を印刷する</p> <p>iii) その後モニター画面を小さくして”採水あり データ処理”を開く</p> <p>iv) データ選択(今モニタリングしたファイルを選ぶ)</p> <p>v) 処理スタートをクリック 自動的にデータがプリントアウトされる</p> <p>vi) 処理終了</p> <p>vii) Seasaveの画面に戻し、画面を閉じる(保存はしなくて良い)</p>	<p>1) CTD回収して下さい</p> <p>CTD回収後</p> <p>i) Real Time DataをクリックしてStop Acquisitionを選択</p> <p>ii) File をクリックしてPrint を選択して画面を印刷する</p> <p>iii) モニタリング画面を縮小して”採水なし データ処理”をクリック</p> <p>iv) データ選択(ファイルを選択)</p> <p>v) 処理スタートをクリック(自動的に印刷)</p> <p>vi) 処理終了をクリック</p> <p>vii) Seasaveの画面を閉じる(保存はしない)</p>